

2022年3月11日第4回TTPUセミナー

東京大学公共政策大学院長 大橋弘 開会挨拶

本日は、お忙しい中、第4回TTPUセミナー「観光の基本に立ち返る～2000年代の観光の総括とこれからの持続可能な観光のあり方～」に、会場及びオンラインで多くの皆様にご参加いただき、主催者として厚く御礼申し上げます。東京大学公共政策大学院長で交通・観光政策研究ユニット長の大橋弘です。

まず、本日のセミナーのパネルディスカッションに御登壇頂く、一般社団法人由布市まちづくり観光局代表理事 桑野和泉(くわの いずみ)様、新潟県津南町長 桑原 悠(くわばら はるか)様、株式会社経営共創基盤(IGPI)グループ会長 富山 和彦(とやまかずひこ)様、フランス観光開発機構 在日代表 フレデリック・マゼンク様、国連世界観光機関(UNWTO)駐日事務所代表 本保 芳明(ほんぼ よしあき)様、東京女子大学現代教養学部国際社会学科コミュニティ構想専攻教授 矢ヶ崎 紀子(やがさき のりこ)様、におかれましては、大変お忙しい中本日のセミナーにご登壇いただき誠にありがとうございます。改めましてこの場を借りて深く御礼を申し上げます。

また、本日の開催にあたっては、一般財団法人運輸総合研究所、国連世界観光機関駐日事務所とは共同開催、観光庁からはご後援をいただきました。関係者の皆様にはこの場を借りて感謝を申し上げます。

さて、私共、交通・観光政策研究ユニット(TTPU)について簡単にご説明申し上げます。TTPUは、東京大学公共政策大学院が設立した2004年にほどなくして設立したユニットであり、公共政策大学院では最初の研究ユニットとして中核的な役割を果たして参っております。

公共政策大学院は、本学で最も留学生比率が高い部局でありまして、定員数の半分以上を占め、これまで累積で60か国以上の国々から学生を受け入れております。ビザがなかなか下りない状況がコロナ禍で続き、2年間の就学期間中に大学に入れないうまま、卒業をする学生が出始めており、大変心苦しい思いをしているのが現状になります。他方、社会人教育にも力を入れておりまして、昨年にはイノベーションガバナンス、この4月には経済安保に関するエクゼクティブコースも設置する準備をしております。

TTPUについては、「国際交通政策」、「地域交通政策研究」、「観光政策概論」、「観光地域政策」といった授業を開講し、交通・運輸分野や観光分野に関する重要な政策課題について、その最新の实情等を講義及び、感染防止対策をしっかりとったもとでの現地視察を通じて、多面的な議論を行いながら政策に関する考察を深められるよう、教育活動を行って

おります。

さらに、TTPUでは、授業と共に、従来から、その時々によろしいテーマを取り上げた公開セミナーの開催を重視し、第4回の今回は「観光の基本に立ち返る」というテーマで開催させていただくことになりました。

観光分野が正式に国の政策の俎上に載せられて、19年目となります。特に、2019年に至るまでの数年間は、観光インバウンドの目覚ましい急成長がありました。他方で、足元の2年間はお案内の通り、打って変わって、大変厳しい状況となっております。さらに、コロナ禍のなかで、デジタル化が急速に進み、NFTやメタバースなどを通じて体験をデジタル化する取り組みも急速に進んでいます。カーボンニュートラルに対しても、ウクライナ情勢など不透明さがありますが、中長期的には対応が求められるのではないかと思います。こうした将来の不確実性のなかで、政策立案のアジリティを高めていくためにも、過去を振り返ってその評価を踏まえることが重要だろうというのが、このセミナーの企画の意図でございます。

2000年代の我が国の観光の歩みを振り返るにあたっては、事前に、観光有識者100名の方にアンケートをお配りし、ご回答いただきました。ご協力いただいた観光有識者の皆様におかれましては、お忙しい中、丁寧にご回答いただき、誠にありがとうございました。

今日は、観光有識者の方々の率直なご意見を総括し、2003年以降の観光の歩みを振り返るとともに、これからの持続可能な観光のあり方を皆様とともに考える機会にできればと思っております。

本日の会が、時間の許す限り活発な意見交換が行われ、ご参加いただいた皆様にとって有益な場となることを祈念いたしまして、簡単ではありますが、冒頭の挨拶とさせていただきます。

本日はお忙しい中ご参加いただき、誠に有難うございます。